

## 図書館利用案内

- 1月のピックアップコーナー  
「人権」  
————— 小笠原祥子 27
- 図書館に関する素朴な疑問コーナー  
————— 28
- おこしやす、図書館へ  
「言語学、はじめの一步 (18)」  
————— 入学 直哉、藤井 達也 29

## 図書館員の文献紹介

- 名作再読、拾い読み (26)  
『アロウスマスの生涯』  
 (“Arrowsmith”)  
————— 小澤 文彦 30
- 日本の歴史37  
『絵はがき100年：  
近代日本のビジュアル・メディア』  
————— 稲垣 宏行 31
- Book Review Corner ————— 32・33

## 学園祭協賛行事記録

- 学園祭協賛行事 フォーラム  
「日本における世界の食文化」 ——— 34~39

## 図書館利用案内

- ライブラリー・カレンダー 2014 (1月~3月)  
————— 40

## ● 本誌の表紙に使われた貴重書



Hasegawa, Takejiro  
*Rhymes & Life Scenes of  
Japan Calendar for 1902*  
Tokyo, 1901

長谷川武次郎 著  
『日本の詩歌と生活情景』

本書は1902 (明治35) 年のカレンダーとして長谷川武次郎が著者兼発行者になって刊行したものである。内容は日本の12ヶ月の代表的な行事を一ヶ月ごとに取り上げ簡単な詩を用いて説明しており、さらに行事を描いた挿絵の中にその月の暦を配している。ひと月ごとの行事として、1月が「新年」、2月が「稲荷の祭礼」、3月が「人形の祭り (雛祭り)」、4月が「向島の花見」、5月が「男の子の祭り (端午の節句)」、6月が「堀切の菖蒲」、7月が「提灯祭り」、8月が「京都の夏」、9月が「菊の祭り」、10月が「戎祭り」、11月が「紅葉山の秋」、そして12月が「新年の準備 (餅つき)」の様子がそれぞれ美しく描かれている。

本学図書館はこの1902年の英語版カレンダーの他に、もう一冊の同内容のフランス語版を所蔵している。これは『日本の咄家』を著したジュール・アダンが翻訳し、明治34年8月に刊行されたもので、書名は *Au Japon les douze mois de l'année* (『日本の12ヶ月』) である。この書物の挿絵は英語カレンダーと全く同じものが使われており、英語版の詩をフランス語に翻訳したものであるが、暦は刷り込まれておらず、書名通り日本のひと月ごとの様子を表現したものとなっている。

原寸 15.2×10.2cm

『文明開化期のちりめん本と浮世絵』  
(2007年本学図書館刊行) より抜粋